

風水害に備えて

台風や大雨は到来がある程度予想できるものの安易に考えることはできません。台風や大雨は毎年のように大きな被害をもたらしています。危険がせまったそのとき、すぐに対応できるよう日ごろから備えておきましょう。

家の内外チェック

屋根・雨どい

- アンテナは不安定になっていませんか。
- トタンがめくれていませんか。
- 瓦のひび・割れ・はがれはありませんか。
- 雨どいにゴミや木の葉は溜まっていませんか。

ブロック

- 傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか。

板 塀

- 板塀に腐りや浮きはありますか。
- 板塀に支柱はありますか。

その他

- ガスボンベは固定していますか。
- 商店などでは看板のぐらつきはありませんか。
- ごみ箱や植木鉢などは室内に入れるか、飛ばないように固定していますか。
- 庭木には添え木をしていますか。
- 窓ガラスが飛散しないような対策をしていますか。

ベランダ

- 植木鉢や物干しざおなど、落下や飛散の危険はありませんか。

窓

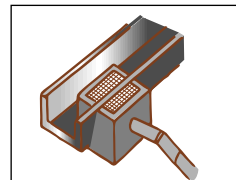
- 窓枠のがたつきはありませんか。
- 雨戸にがたつきはありませんか。

外 壁

- モルタルの壁に亀裂はありませんか。

排水溝

- 側溝や雨水ますにゴミや土砂はありませんか。

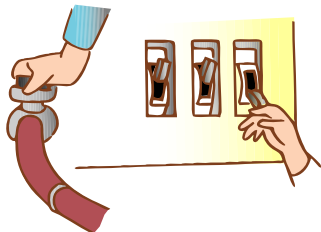


洪水時の心得



避難の前に確認を

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を締め、床下の通気口などをふさぎ、戸締まりを確認しましょう。



動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットをかぶり、はき物は水に浸かって歩いても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプがよいでしょう。



避難の呼びかけに注意を

危険が迫ったとき、防災行政無線や広報車などから避難の呼びかけをすることがあります。

呼びかけがあった場合には速やかに避難しましょう。



歩ける深さ男性約70cm、女性約50cm

洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまで。

それ以上になったら高い場所で救助を待ちましょう。



避難は徒歩で

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げとなります。また、浸水すると動かなくなるので使わないようにしましょう。



水面下は危険です。二人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。

